

管内概要

1 位 置

当所の管轄区域は、県の東部から南東部に位置し、その行政区域は富士吉田市、都留市、大月市、上野原市、南都留郡（道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町）、北都留郡（小菅村、丹波山村）の4市2町6村で、人口は、179,333人（平成28年4月1日現在推計人口）、県人口の21.6%となっている。

また、管内行政区画面積は、130,926haで県面積の29.3%を占めている。

2 地 勢

当所の管轄区域は、県の東部地域と富士北麓地域からなっている。
東部地域は、大部分が山岳地帯で主脈に直角な多数の支脈が走り複雑で、急峻な地形となっている。また、主要水系は、相模川水系と多摩川水系である。相模川水系は山中湖・西湖を源流とする桂川を主流とし、南から東に貫通し、流下するにしたがい鹿留川、菅野川、大幡川、朝日川、笹子川、真木川、葛野川、鶴川等の支流を集め、神奈川県の新相模湖、津久井湖に流入している。また、東南部を東流する秋山川、道志川も同湖に流入している。多摩川水系は、大菩薩嶺及び倉掛山、笠取山等の分水嶺を源流とする小菅川、丹波川が北を流下し、奥多摩湖に注いでいる。

富士北麓地域は、四方を山に囲まれ南は富士山、東は道志山塊の杓子山、石割山、北は御坂山系の三ツ峠、黒岳、十二ヶ岳、王岳が連なり、西には天子山塊がある。富士山体には常時流水はなく、年間降水量20億 m^3 といわれる降雨、降雪は深く浸透し、伏流して富士吉田市の泉端その他湧泉、忍野八海等に湧出し、更に5つの湖となっている。河川は山中湖を発した桂川が忍野八海の湧水と河口湖からの水を合わせて道志、御坂両山塊の間を流れ、相模川となっている。

3 地 質

富士山の地表に現れた山体の構成物質は、集塊質泥流及び火山砂礫と溶岩流からなる。富士山の溶岩流は、その噴出期により第1期から第4期噴出溶岩に分類される。第1・2期のものは本県側には余り分布しない。第3期のものは主として、御中道を境として中腹以上の山体を構成し、その質は、堅実粘性に富み、流下距離は短い。本期溶岩は斑晶がなく緻密で黒色或いは藍灰色を呈している。第4期のものは末期の噴出になるもので、中腹以下の山腹及び山麓一体の溶岩はこれに属する。

相模川流域の地質は、北部の関東山地に分布する中生代の小仏層と南部の新生代、新第三紀層に属する御坂層に区分され、小仏層は粘板岩、頁岩、砂岩互層から、御坂層は御坂山系の安山岩、凝灰岩、礫岩、砂岩と桂川系の礫岩、泥岩、凝灰角礫岩から形成されている。

多摩川流域の地質は、北西から南東に走る断層によって南北に二分され、北側は主として、中世代のジュラ紀に属し、砂岩、頁岩の互層からなっているが、一部は、黒灰色の石灰岩からなり、砂岩も含んだ鳥の巣石灰岩等が見られる。南側は相模川流域の北部と同一形態をなす小仏層である。

4 気 象

東部地域の気候は、年平均気温13.1℃、年平均降水量1,454mmで比較的スギ、ヒノキの生育に適した気象条件であるが、冬期の気温は変化が激しく、北斜面を中心にしばしば寒干害が発生している。

富士北麓地域は、標高が高く、高原的気候に加え、寒冷多雨である。年平均気温は10.2℃、8月の平均が21.7℃、厳寒期1月の平均は-1.2℃で県下で最も寒い地域である。降水量は、平均2,019mmである。

管内概要

5 林 況

森林面積は、国有林520ha、県有林39,352ha、民有林67,820ha、合計107,692haで、管内総面積の約82%を占めている。

東部地域では、人工林率約50%と県平均を上回っている。これは昭和20年代から昭和40年代前半にかけて盛んであった薪炭林跡地への積極的な拡大造林推進による結果である。人工林の植栽樹種はスギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツが全体の97%を占めている。天然林は、概ね標高1,500m以上に分布するウラジロモミ、コメツガ等の亜高山針葉樹林とミズナラ、カンバ類及び1,000m以下に分布するコナラ、クヌギ、カエデ等からなる落葉広葉樹林に大別される。

富士北麓地域は、標高770mから3,400mに達し、天然林の分布は概ね我が国の垂直的森林帯を代表しており、標高1,500m付近より下部のツガ、モミ、ブナ、ミズナラ等の温帯性山麓地帯、1,500m以上のコメツガ、トウヒ、シラベ等の亜寒帯性高山地帯、カラマツ、ダケカンバ等の寒帯性矮樹地帯、コナラ、クリ等の温帯性低山地帯及びカラマツ林の特殊地帯に大別される。また、造林事業は、富士山北面一体に行われ、植栽樹種はカラマツ、アカマツ、シラベ、ウラジロモミ等である。

6 そ の 他

管轄区域の森林は、相模川、多摩川の源流域の位置し、北部の小菅村、丹波山村には東京都有林（8,202ha）、南東部の道志村には横浜市有林（2,911ha）があり、首都圏における水源林として重要な位置を占めている。

また、首都圏からのアクセスの良さや豊かな自然環境等の立地条件が整っていることから、森林レクリエーション等森林の総合利用への期待が高く、今後、森林生産活動との調和を図りながら、景観にも十分配慮した森林の取り扱いが求められている。

行政区域面積及び森林面積

区分 市町村	行政区域面積 (ha)	森林面積 (ha)					森林比率 (%)
		民有林	県有林	国有林		総数	
富士吉田市	12,174	3,052	5,447	14		8,513	69.93
都留市	16,163	7,577	5,936	115		13,628	84.32
大月市	28,025	12,935	11,176	207		24,318	86.77
上野原市	17,057	12,513	1,297	184		13,994	82.04
道志村	7,968	7,468				7,468	93.72
西桂町	1,522	881	417			1,298	85.28
忍野村	2,505	1,352				1,352	53.97
山中湖村	5,305	1,748	1,344			3,092	58.28
鳴沢村	8,958	1,026	6,724			7,750	86.51
富士河口湖町	15,840	4,464	7,011			11,475	72.44
小菅村	5,278	4,932				4,932	93.44
丹波山村	10,130	9,871				9,871	97.44
管内合計	130,925	67,820	39,352	520		107,692	82.25

1) 行政区域面積は「平成27年度全国都道府県市区町村別面積調」による。

2) 森林面積は、地域森林計画書(山梨東部森林計画区 平成26年4月1日～平成36年3月31日)による。